

第111回 『わかるように伝えていますか』

香川大学 坂井 聡

普通とは？

普通という言葉はよく使われる。「普通の生活がしたい」「普通でありたい」「あの人、普通じゃないんじゃない」などと使われているのである。ところが、「普通ってなんですか」と問われたら、なかなか明確な答えは返ってこない。

普通とはなにか？

辞書には、普通を広く通用する状態のことというように書かれている。

社会の中で、学校の中で、家庭の中で広く通用する状態のことだというのである。だとすると、そこには文化的な背景があると考えられる。その集団がもっている文化なのである。障害がある人の場合について、その支援者や、指導者に障害は何かと聞いたとき、「普通にできることができないこと」というような答えが返ってくることもある。つまり、周囲の環境が作っている文化によって、何かが縛られていて、その縛られている何かのために行動ができなくなっているということではないかと思うのである。その文化は、これから先も同じようにずっと守らねばならないものだろうか。私はそうではないと思う。文化は、人間が成熟し、社会が成熟していく間に変化していくものである。その時々 of 時代の中で徐々にではあるが変化していくものなのである。

ここで私たち文化を作っていくものの役割がある。誰もが「生まれてきてよかった」といえる文化を作っていくことができるかということである。それが「普通」にならなくてはいけないのではないかと思う。この点から考えると、まだまだ成熟していない文化の中で生活しているのではないかと思う。新聞紙上には、毎日のように心が痛む事件の記事が載るからである。なぜ、このような事件が多く起こるのだろうか。生まれてきたときは、どの人も生きる意欲に満ち溢れていたのではないかと思う。体を動かし、泣き、微笑み……。このように無邪気だった子どもが、いつから社会から身を遠ざけるようになるのだろうか。

一度しっかり教育を振り返らないといけない時期が来ているように思う。海外からの人もたくさん住むようになる。このまま島国根性では乗り切れない時が来るはずである。このタイミングは、障害のある人に対する意識を変えるチャンスでもあるように思う。障害は、環境が作り出しているということを再度意識して、文化をより良い方向に成熟させていきたいものである。

～坂井聡先生の紹介～

((プロフィール))

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授。1997年には自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞。2013年より教授に就任。